

連載



インド株ファンドの新規設定の動きが続いています。12月にはテーマ型のインド株ファンドが2本、中小型株を投資対象とするインド株ファンドが2本、大型株を投資対象とするインデックスファンド1本と、計5本の新ファンドの設定が予定されています。これにより、国内投信市場におけるインド株ファンドの新規設定本数は、2022年が3本、23年が5本、24年が12本（執筆時点の予定含む）と、インド株投資の選択肢はますます広がっています。直近の11月は利益確定売りなどから既存のインド株ファンドが26カ月ぶりの資金流出に転じていますが、新ファンドの設定が続くことで、再び資金フローが改善することも期待されます。足元で設定予定の新ファンドを見ると、時価総額のより小さい中型株から小型株へと投資対象が広がったことも確認できます（25年1月にも中小型株を対象とするインド株ファンドが1本設定予定）。また、昨年来インドの内需拡大に注目した消費やインフラといったテーマ型の

インド株ファンドにも高水準の資金流入が見られていましたが、12月にはイノベーションやテクノロジー関連のテーマ型ファンドが新たに設定される予定となっています。

ちなみに、イノベーションをテーマとした新ファンドは、投資対象となる私募投信を当社グループのバローダBNPパリバ・アセットマネジメント・インドが運用しているものですが、類似戦略で運用するファンドが今

年3月にインド国内（インド籍）で設定されています。そこで、今回は、インド国内におけるインド株ファンドの最新トレンドを見ていきたいと思います。図表は、インド国内におけるインド株ファンドの新規設定本数をタイプ別に示したものです。まず、インド株の好調なパフォーマンスに支えられて24年に新規設定本数が大きく増えていることが確認できますが、そのタイプの内訳も大きく変化していることが分かります。コロナ禍からインド株相場が上昇に転じ、21年には新規設定の多くがアクティブ型のインド株ファンドでしたが、24年にはその本数・比率ともに大きく減少しています。一方で、22年にはインデックス型のインド株ファンドが大きく台頭し、その流れは24年も続いています。さらに、23年以降はセクターに特化したものやテーマ型のインド株ファンドの存在感が高まっているのも特徴として挙げられるでしょう。

もちろんファンドの本数は、インド国内と日本の投信市場で大きな違いはありますが、それぞれ同様にインド株ファンドにおける多様化というトレンドが確認できます。このように選択肢が増えることで、インド株のどの部分の成長を狙っていくのかといった投資家の様々なニーズに応えることが可能になり、個人投資家のポートフォリオにおけるインド株ファンドの活用の幅も広がっていくことが期待されます。

（執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介）

図表 インド国内におけるインド株ファンドのタイプ別新規設定本数

